



2021年度 活動計画

樹木・環境 ネットワーク協会



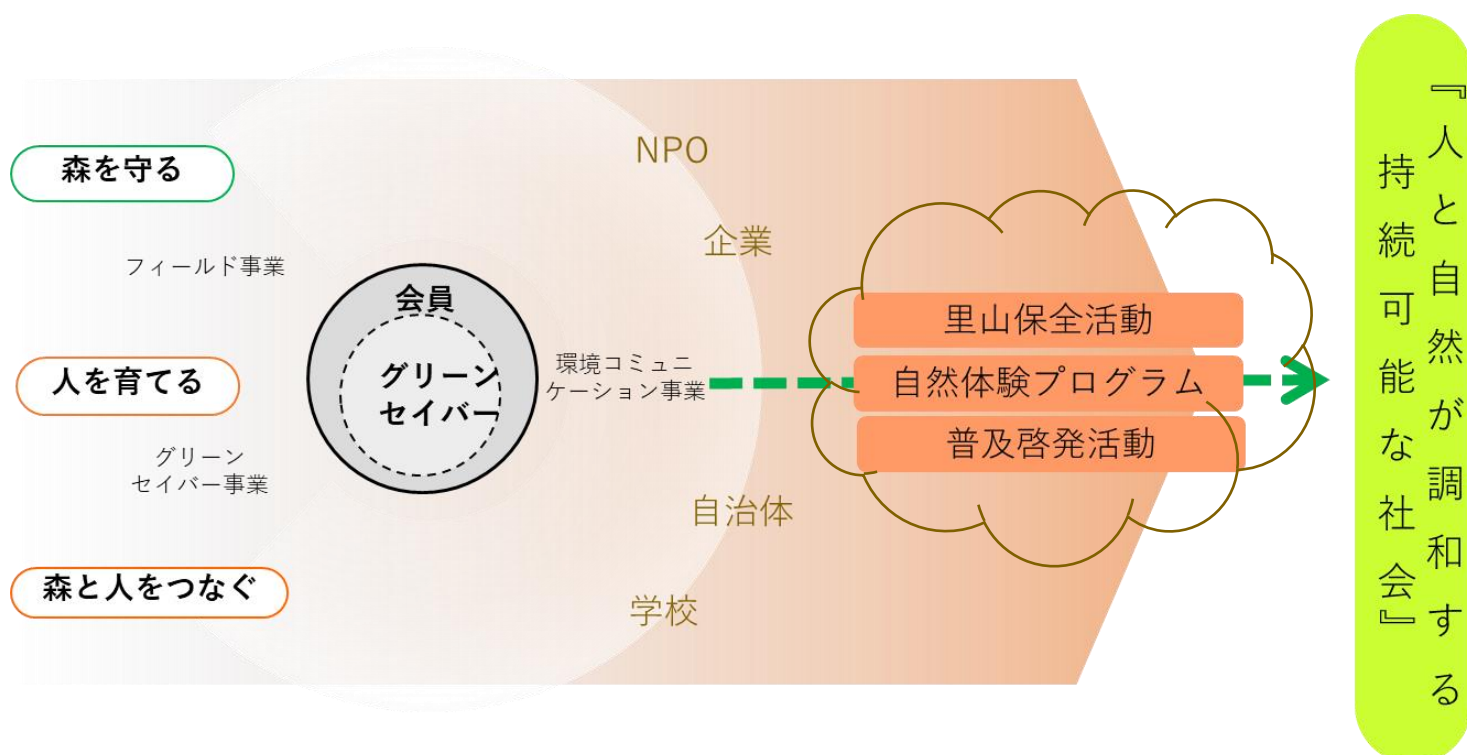
皆様とともに、より地域に根差した活動へ

2020年度は、協会始まって以来の大きな試練の年となりました。同時に、その試練への対応を模索する中で、様々な学びを得られた1年でもありました。これまで続けてきた「人と自然をつなぐ」というミッションを、新しいスタイル、多様な形で実施できたことも大きな収穫でした。

あらためて、どんな状況においても、協会の目指す社会を実現するために、活動を続けていかなければならないと感じています。

25年余りの活動を経た今、より“地域に根差した活動”へ展開していく時期を迎えたと考えています。人々の生活に身近な緑地を通して、そこで暮らす人々と一緒に「人と自然が調和する社会」を醸成する場をつくります。地方を含めた、さまざまな地域からの発信も計画しています。

これらの活動を続けていくためには、皆様の声を聞きながら、新しい事業に取組み、より安定した運営体制を目指していくことが大切だと考えています。今後とも、ご支援、ご協力をお願いいたします。





森を守る



森林保全活動

SDGsの普及に伴い、さまざまな社会課題がつながりはじめています。地球温暖化など気候変動を抑えることが、今後人類が持続するために必要であるとされる中、エネルギー問題が注目を集めていますが、当会では森林保全活動を、CO2の削減だけでなく生物多様性保全にも寄与することができる活動としてとらえ、継続してきました。

現在、全国で行われている保全活動は14か所。21年度は1件終了、そして、新たな活動が2件加わりスタートします。

それぞれのフィールドにおいては、環境も背景も異なり、抱える課題はさまざまですが、継続した保全活動を推進していくために協会として一丸となって取り組んでいきます。

2021年度 フィールド

- 01.上野動物園 緑化ボランティア
- 02.町田 三輪里山
- 03.多摩動物公園雑木林 TAMAZO
- 04.武蔵野の森から学ぼう
- 05.千葉おぐらの森
- 06.嵐山ふれあいの森
- 07.二宮蜜柑倶楽部
- 08.八ヶ岳ワーキング
- 09.交野・森フィールド
- 10.レッツ久宝探検隊
- 11.御杖村フォールド
- 12.和歌山ワーキング
- 13.町田養運寺ふるさとの森
- 14.庵山ふれあいの森

新しいフィールド活動

町田市養運寺「ふるさとの森」

三輪里山から車で30分ほどのところに町田市が指定する「本町田宿ふるさとの森」があります。その有力地主である養運寺さんから依頼を受けて、里山林の整備・保全作業が始まっています。主たるメンバーは、今のところ三輪里山のメンバーですが、今年中には季節に合わせた一年間の保全作業をマニュアル化し、近隣住民が楽しく参加できる保全作業を目指しています。年間をつうじて大人も子供も共に楽しく憩える・遊べる、イベントなども開催できる「里山林」を作っていきます。

交野市「庵山ふれあいの森」

南星台の終了に伴い、交野市内の森である「庵山ふれあいの森」での活動がスタートすることになりました。緑ネットとの協働活動となり、他団体と連携をしながら森づくりを行うフィールドとなります。

フィールド間の支援

コロナ禍にあった2020年度には「嵐山ふれあいの森×三輪里山」で横の連携=技術交流を実践しました。引き続き今年度も技術交流を続けて行い、フィールド間での技術支援や交流の場を設けていきます。

協働活動の展開

行政や企業、学校等との協働した活動、イベント等の活動を推進します。

保全活動、森づくりの活動は、単独で進めているものではなく、多くの方々と目的やビジョンを共有していくことで、理想の森づくりをしていきます。

森づくり支援

法人会員でもある東京シティライオンズクラブやパラッツォ東京プラザ等、法人・団体としての環境保全活動の場を進めています。当会のこれまでの森づくりのノウハウを活かし、森づくりの支援やコーディネートも行います。



グリーンセイバー企画関連

GS企画

グリーンセイバーが運営・実施する一般向けの観察会や講座を行うGS企画。

2021年も、コロナの感染状況をにらみながらの実施にはなりますが、感染対策をきちんとして、自然との触れ合いの機会を多くの人に提供し共感の輪を広げていくために、実施する方向です。

- 1) 子どもワクワクプロジェクト
未就学～小学生（全学年）を対象とした自然体験プログラム
- 2) 自然に親しむ講座
深く自然を学ぶことができる講座的プログラムの実施
- 3) これからはじめる自然観察
自然観察をはじめたい、はじめたばかりの方を対象とした自然観察プログラム

GS研修・勉強会

ひとりの木やフェノロジー研究会、育苗勉強会等グリーンセイバー独自のプログラムも継続して実施します。2020年に引き続き、Youtube動画のショート版も適宜制作し、HPにアップする予定です。

お互いに教えあって学ぶ場がGS研修や勉強会であり、GSのみなさんから様々なアイデアが出てきました。オンライン方式もフルに活用しながらスキルアップの場を創り出していきます。

<実施予定の研修ラインナップ>

フェノロジー 利根運河 育苗勉強会
キノコ研修 昆虫研修 ひとりの木
沖縄の自然 山の自然観察 春の道草 等

グリーンセイバー資格検定

グリーンセイバー資格検定

ネイチャー&カルチャー試験は4会場に

2021年8月29日に、2年目のグリーンセイバーネイチャー&カルチャーの検定試験を実施します。2021年度は東京、大阪、岡山、仙台の4会場での実施を予定しています。

ガイダンスやセミナーはオンライン講座として実施し、広く受けることが出来る運営をしています。

2020年2月に発行されたテキストは第2版となり、Yahoo!ショッピング「TAMATEBAKO」のほか、Amazonからも購入可能になりました。順調な売れ行きが続いています。今後、さらに受検とテキストをPRしていきます。



グリーンセイバーナビ

2020年度に「グリーンセイバーナビ」のテキスト作成を再開しました。人と自然の共生のあり方に興味を持ってもらうための入り口として、人と自然の身近な話題を集めた内容になっています。

どのように書いたら興味を持ってもらえるか、執筆者陣により原稿を大幅に見直し、鋭意制作中で、2021年度に完成を目指しています。





継続的な協働事業の推進

法人・企業との協働活動

これまでも企業や他の団体との協働活動を行ってきました。特に企業との協働では、さまざまな目的で森づくりや環境教育的活動を企画・運営しています。参加者も社員から一般、子どもから大人まで、対象もさまざまです。これまで行ってきた活動を継続していきます。

学校との環境教育

各地の小中学校での環境学習の協力とフィールドでの体験学習なども視野にいたした活動を提案していきます。

オンラインの有効活用

自然や保全活動に対して、実地による活動が大切ですが。そのための研修や普及促進のための講座など、積極的にオンラインを活用し、森や環境への入り口の機会として有効に活用していきます。

自治体・行政との協力事業

指定管理・公園管理事業への挑戦

協会では“里山”をキーワードに身近な自然との関係や利用について、現在におけるあり方を求めてきました。これまでの協働や連携が縁となって、公園や緑地の指定管理、公園の管理運営事業に携わるべく準備を進めています。ようやくその可能性が見えてきました。身近な緑のひとつである公園での活動を通して、地域に根差した街づくりや人材育成を行う活動の展開が期待できます。このような事業も、協会の運営の柱とするべく、来年度から本格的に開始できるように進めています。

ビジターセンター運営支援

町田三輪里山に隣接する形で三輪の森ビジターセンターが2018年に開設され、現在、市で管理されています。当会で行ってきたこれまでの保全活動の実績がビジターセンターの常設展示になります。展示は参加型のものも制作し、初夏にビジターセンターに展示される予定です。

法人研究会の取組

法人研究会でも、オンライン会議という新しい方式を使うことで、新たな可能性が見えてきました。企業研修と同様、法人会員のみなさんとも、オンラインによる勉強会・研修会を進めていきます。

また、コロナ感染拡大が収まった頃にフィールドでの現地研修を実施し、現地で実物に触れながら、企業が環境活動にどう取り組むかを一緒に考える機会を持ちたいと考えています。





新しい生活様式での活動

オンライン等を活用した 新しい活動スタイルの推進

新型コロナウイルスの感染拡大から1年以上たち、感染対策をしながらの活動スタイルも定着してきました。オンラインシステムの普及により、地方の会員ともつながりやすくなったことなど、良い変化も見られます。今後も、この間に培ったノウハウを活用して、安心、安全に最大限配慮しながら、コロナ後を見据えた持続可能な活動スタイルを構築していきます。

広報・情報共有

情報発信の多様化

引き続き、ホームページ、聚レター、メルマガ、各種SNSを活用し、それぞれの特性を活かした情報発信、共有を推進します。

さらに、Youtube動画やLive配信、オンラインイベント等、多様なメディアを活用し、他団体ともコラボしながら、より多くの方に当協会の活動を知っていただく機会を増やします。

聚レター電子版の活用

コストの高騰から聚レターの見直しを検討しましたが、紙版の汎用性の高さ、各種告知や会員更新、総会等の書類書類を聚レターと一緒に発送する必要性を鑑み、当面は紙版の発行を維持。並行してアマゾンで電子版を発売することで、会員以外の方にも当協会について知っていただけるツールとして活用したいと考えています。

寄付・助成制度等の活用

寄付・助成金・表彰制度の積極活用

環境活動における助成金だけでなく、法人の運営に関わる助成制度を活用し、保全活動等で使える予算の確保を目指します。

また、表彰制度へのエントリー、寄付キャンペーンへの参加を、奨励金や寄付を得る機会であるとともに、より多くの方に当協会の活動を知っていただくチャンスととらえ、積極的に活用していきます。

会員・グリーンセイバーを増やす

検定受検者、イベント参加者等、 会員予備軍への働きかけを強化

グリーンセイバー検定受検者、定例活動やイベントへの参加者等、当協会と接点をもった一般の方への働きかけを強化し、当協会の活動への理解、参加、入会を促します。

キャンペーンの効果を分析し、会員も活動に参加できる仕組みや会員として継続がしやすい情報発信をしてまいります。

事務局運営

会員の声を反映させやすい 運営体制の構築

運営会議では新しい事業や取り組み、日常的な課題のことなどを話し合っていることは聚レターなどを通じてみなさまへも情報としてオープンにしていきます。またご希望があれば参加していただくことも可能です。パートナーズボイスプロジェクトをはじめ、活動方針、内容の決定、事務局運営のプロセスを、会員と共有しながら進められる仕組みづくりを推進します。

バックオフィス、テレワーク

事務局業務の主な部分を占めるバックオフィス業務は本来活動を支えるために必要な仕事であるため、クラウドを活用した効率化、業務の改善と拡大を図ります。

また、テレワーク体制の整備により多様な働き方ができるようになりました。在宅勤務、オンラインミーティングをしやすくなった環境を活かし、他拠点をつないだ業務展開や地方との連携強化を図ります。



2021年度 予算計画

◆収入の部

項目	2020年度実績	2021年度予算	主な活動
会費(計)	¥3,836,000	¥3,819,000	
正会員	3,791,000	3,774,000	個人、家族、法人、団体
準会員	45,000	45,000	賛助、ユース
寄付	¥2,697,341	¥1,820,000	個人、あすのはね、キボウノカケハシ等
事業(計)	¥13,330,894	¥13,720,000	
内訳) グリーンセイバー事業	2,614,754	3,150,000	検定、セミナー、過去問・テキスト販売、GS企画
内訳) フィールド事業	3,371,154	3,230,000	フィールド活動委託、法人・団体等の活動受け入れ
内訳) 環境コミュニケーション事業	4,060,979	6,840,000	法人・団体との協働活動やコーディネート
内訳) 行政委託関連	3,284,007	500,000	行政委託事業、指定管理関連
その他収益	¥3,051,217	¥100,000	事業外助成金、その他
収入の部 合計	¥22,915,452	¥19,459,000	

◆支出の部（固定費を含む）

項目	2020年度実績	2021年度予算	主な活動
総務・管理	¥3,656,738	¥3,200,000	固定費、会員管理、日常業務 等
事業支出(計)	¥15,527,580	¥12,525,000	
内訳) グリーンセイバー事業	3,679,904	3,100,000	検定、セミナー、見直し検討 等
内訳) フィールド事業	4,050,452	3,000,000	フィールド活動推進、法人・団体との活動経費
内訳) 環境コミュニケーション事業	4,465,968	5,925,000	行法人・団体との協働活動やコーディネート
内訳) 行政委託関連	3,331,256	500,000	行政委託事業、指定管理関連
広報	¥3,517,021	¥3,500,000	会報誌・ホームページの作成と運営
法人税・住民税・事業税	¥150,000	¥150,000	法人税、住民税、事業税 等
支出の部 合計	¥22,851,339	¥19,375,000	

◆固定費（支出に含まれる）

人件費・通勤費・福利	10,547,245	8,400,000	事務局、アルバイト人件費、および通勤費
地代家賃	1,953,600	2,000,000	東京事務局ビル
光熱費・リース代 他	1,522,588	1,500,000	水道光熱費、リース代、保険代
社会保険、労災保険	181,014	180,000	
租税公課・法人税・事業税	789,600	800,000	消費税ほか
固定費合計	¥14,994,047	12,880,000	

前期正味財産	¥3,378,434	¥3,442,547	
当期正味財産増減額	¥64,113	¥84,000	
正味財産合計	¥3,442,547	¥3,526,547	

- ・21年度は新型コロナウイルス（COVID-19）による協働事業の中止に伴う大きな収入減となることが予測され、非常に見通しの悪い年となる。
- ・グリーンセイバーの新しいテキストの発売と資格検定の実施による収入を目指す。
- ・事務局人件費とスタッフ謝礼を含む固定費と事業費の支出を抑え、黒字化を目指す。

【最高顧問】 池田 武邦

【顧問】 山本 光二

【顧問】 澁澤 寿一

【理事長】 清水 善和

【専務理事】 佐藤（中西） 由美子

【理事】 飯塚 勇

【理事】 大川 英登

【理事】 小笠原 幹治

【理事】 岡本 俊彦

【理事】 片山 雅男

【理事】 川端 自人

【理事】 小林 健人

【理事】 小和田 祐子

【理事】 後藤 洋一

【理事】 塚本 秀貴

【理事】 広瀬 攻

【理事】 藤井 英夫

【監事】 三尾 隆志

【監事】 吉田 寛

樹医

前理事長

駒澤大学総合教育研究部教授

グリーンセイバー・マスター

株式会社丸原ホールディングス代表取締役

御杖村フィールドリーダー

株式会社アテナ 顧問

グリーンセイバー・マスター

神戸教育短期大学児童教育学科元教授

グリーンセイバー・マスター

NPOフュージョン長池 理事

東京ガス株式会社 サステナビリティ推進部長

事務局長

グリーンセイバー・マスター

三輪里山フィールドリーダー

トヨタ自動車株式会社 先進技術開発カンパニー 環境部

公認会計士

公認会計士 公会計研究所 代表

【事務局スタッフ】

専務理事 中西 由美子

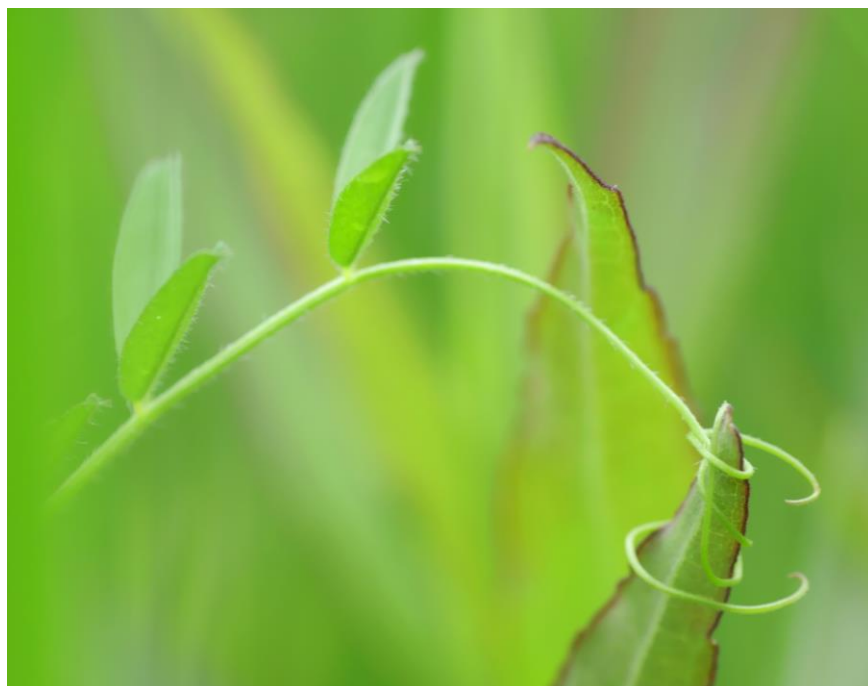
理事・事務局長 後藤 洋一

スタッフ（東京） 石崎 庸子

スタッフ（東京） 加藤 武

スタッフ（東京） 陣野 益実

スタッフ（大阪） 山本 睦子







団体概要

【組織】

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会
設立 1995年9月19日
ホームページ <https://www.shu.or.jp/>

○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6
日本分譲住宅会館ビル8階南
[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448
[Mail] info@shu.or.jp

○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号
[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247
[Mail] kansai.syu1@nifty.com
[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>